

## パラグアイ情勢 (2024年8月)

### 【国内政治】

#### ●アブド前大統領の再登場

11日、アブド前大統領がテレフトゥロ社のインタビュー番組に出演し、与党コロラド党の分裂状態に言及の上、(自身も含めた)反主流派の存在意義を強調しつつ、今後も国政に関与していく意思を表明した。同前大統領は昨年8月の任期終了後、公の場に殆ど姿を現していなかったことから、関連報道の多くは、同大統領が1年ぶりに「沈黙を破った」点に発信の重点を置いている。

#### ●ヒメネス官房長官の辞任

12日、ヒメネス官房長官は、一身上の都合によるとして(イタイプ二国間公団パラグアイ側理事職と併せ)辞意を表明、15日付で辞任した。その後、ペニャ大統領は当面自身が官房長官職を兼任する旨発表した。ヒメネス長官は次期駐米大使に任命されていた(公式発表はない)が、右は取り消されたと報じられた。本件辞任劇に関し、当地報道の多くは、カルテス・コロラド党首(元大統領)の圧力に堪えられなくなったことが要因としている。なお、同長官は、9月2日付でラテンアメリカ開発銀行(CAF)の総裁顧問に任命された。

#### ●ペニャ政権1周年

15日、ペニャ政権は発足1周年を迎えた。ペニャ大統領は12日の閣議でこの1年間の業績の自己評価を行い、教育分野、治安改善、住宅事情の改善、医療施設の充実等について特に大きな成果があった点、政権と議会、司法府との関係は良好である点を強調しつつ、改革の取組を一層加速したい旨発言した。

#### ●ゴメス下院議員の射殺

19日、アマンバイ県選出のゴメス下院議員が、同県ペドロ・ファン・カバジェロ市の自宅で、家宅捜査に際し警察に発砲され死亡した。同議員はコロラド党カルテス派に所属し、マネーロンダリングへの関与及び伯密輸組織への支援に係る疑いがかかっていた。

#### ●次期大統領選挙の与党候補指名

23日、ペニャ大統領は、アリアナ副大統領の地元ニュエンプク県で行われたコロラド党行事の場で、同副大統領を2028年大統領選挙のコロラド党候補に指名した。その場には、カルテス党首も居合わせた。

#### ●2025年度予算政府原案の提出

30日、政府は議会へ、2025年度予算案を提出した。総額約1,329億グアラニー(約180億米ドル)で、本2024年度の1,210億グアラニーに比して約10%の増(本年度予算の政府原案時点の額との比較では約12%の増)。当地メディアの多くは、特に大統領選挙の外遊関係費が約44億グアラニー(約60億米ドル)と本年対比倍増とされている点に注目し報じた。

## 【対外関係】

### ●ウクライナ議員団の訪問

2日、ウクライナの議員3名が来訪。在亜同国大使、当地同国名誉領事と共にラトレ下院議長を表敬訪問するとともに、下院の外交委員会及びパラグアイ・ウクライナ友好議連メンバーと会談した。

### ●ラミレス外相の訪米

6日、ラミレス外相は米ワシントンDCを訪問し、OAS事務総長選挙を視野に入れた選挙活動を行った。

### ●米国による対TABESA社制裁の継続発表とパラグアイ政府の米大使早期出国要請

6日、オストフィールド当地米国大使は、米財務省外国資産管理室（OFAC）が「Tabacalera del Este」社（通称TABESA。カルテス・コロラド党首が所有していたが、米制裁を受け売却）に対し、カルテス氏への資金提供が継続しているとして、2023年に決定した制裁措置を継続する旨、記者会見の場で述べた。これに対し、8日、ラミレス外相はオストフィールド大使を召致するとともに、ペニャ大統領、ヒメネス官房長官との協議を経て、パラグアイ政府として外国からの内政干渉は受けない、オストフィールド大使の早期帰国を要請する旨声明した。また、9日、議会のコロラド党議員団は、米国の措置に反対しカルテス党首を擁護する旨の決議を採択した。なお、オストフィールド大使は、元々近々の任期終了・離任が決まっており、後任は発表済。

### ●ペニャ大統領のドミニカ共和国、コスタリカ訪問

ペニャ大統領は15～17日、ドミニカ共和国大統領就任式典に出席するため同国を訪問。また、18～20日にはコスタリカを公式訪問し、パラグアイへの投資誘致、OAS事務局長選挙（ラミレス外相が立候補）に係る働きかけ等を行った。

### ●ベネズエラ情勢に関する共同声明

23日、パラグアイ他米州の11カ国は、ベネズエラ大統領選挙に係る同国最高裁の判断（マドゥーロ大統領の再選勝利を有効とするもの。22日発表）を認めず、同国における民主主義や選挙の透明性を求める旨の共同声明を発出した。これに先立ち、22日にはペニャ大統領が自身のXで、ベネズエラ最高裁の右判断を遺憾とする発信を行っていた。

### ●ラミレス外相のアルゼンチン訪問

22日～24日、ラミレス外相が訪亜。OAS事務総長選挙活動等を行った。

### ●対台湾関係に係る、中国外交部からパラグアイへの呼びかけ

23日、中国外交部の毛寧報道官は記者会見でパラグアイ・台湾の外交関係に触れ、パラグアイ政府は右を断絶して中国と関係正常化すべきであり、「正しい判断」を求める旨発言した。